

静かだがまんづよい少年

大 広 久 市

今を去る六十五年前、私は大正五年の春、和田尋常高等小学校に入学し、大平君と共に学び共に遊びました。

小学生時代はとりわけ変わったようにも思われませんでした。今、当時を思い出してみますと、まず一番には、温厚で辛抱強く勉強好きで、友達中から尊敬され親しまれる静かなタイプでしたが、身体はがっちりとしており、その風貌は緋の着物に草履姿の銅像で見る西郷隆盛のような感じでした。彼は特に相撲が好きで、遊び時間に砂場でよく取り合ったが、独特の粘りと強健な身体で非常に強かった。ある時、担任の茨木先生をみんなで担いで職員室まで運んだことがあったが、途中でみんなが倒れても、彼は真赤な顔をしながら最後まで担いで離さなかつたことや、先生のズボンに鼻汁をつけたことなど、数々の思い出があります。

茨木先生は、私達の小学生時代の恩師六、七人の先生のなかでも一番印象深いお人です。師範学校を出て初めて小学二年生の私達を受持たれました。柔道初段の立派な体格で、愉快で面白く生徒からよく慕われた先生です。私達の組は男子ばかり四十七人なので、先生は四十七土といい、大平君を大石蔵之助、ある者を神崎与五郎、大高源吾などといって元気づけたりしました。先生は、退職されてから香川県議会議員もつとめられ、大平君が衆議院議員総選挙に立候補するや、その選挙事務長として采配を振られました。

私は、大平君と席を並べて学んだ学期がたびたびありましたが、考査の時彼の書いている答案用紙を盗み見したことがあります。大抵の生徒は見られると手や頭で答案用紙を隠すものですが、彼は私が見ているのに気づい

ても知らん態です。特に彼は算術が抜群で、よく世話になったものです。先生から問題が出されたとき、自信がなくてもすぐ手を挙げるものがありますが、大平君は、十分に考えて確実だという自信がなければ決して手を挙げませんでした。あるとき非常に難しい問題が出されたことがあります。誰も手を挙げるものがなかった。しばらくして先生が「大平君」と指名すると「ウーン」といったまま考え込み、しばらくして的確に答えました。そのときの姿、態度は、彼が成人して政治家となり一国の総理大臣になられても、小さい頃そのままという感じですよ。貧しい農家のこととて学校から帰っても勉強等はさせてくれませんでした。特に彼のお母さんは厳格でしっかりしたお人でありました。いつも副業の麦稈サナダ編みをさせられたもので、申しつけられた量の長さに編まないといけない毎日であり、本を横に置いて時々見たり、懐ろに本を入れて近所の友達などと麦稈サナダの編み競争をしたり、夏になれば川や池に泳ぎに行ったり、田圃の灌水用の足踏みポンプを踏んだりしていたことは、なんら普通のものと同様だったように思われませんでした。とにかく彼のがまん強さと粘りと根気のよさは人一倍のものがありません。その後大正十二年、大平君は中学に進み、私は高等科に残り、農家の跡を継ぎ、彼は次第に上級学校へと進み勉学に励まれましたが、私も軍隊に入ったので彼のその後については詳しいことはわかりません。

終戦後、軍隊生活を終えて帰り、昭和二十七年に大平君が初めて衆議院議員選挙に立候補したのを機会に、再び友達として私達同級生は一体となって彼を守り、常に友情を深めお互いに励んできました。大平君も会うたびに「オー、元気が」といいながら一人一人と手を握り、肩をたたき、その暖かみを全身に感じたことが今も目に浮かび、なつかしく涙が出るばかりです。

昭和五十五年六月十二日未明、突然の悲報に接した同級生一同は、ただ呆然として食事も喉を通らず、なかには床に臥した者もありました。今は亡き大平正芳君を偲んでご冥福をお祈りします。(和田尋常高等小学校同級生)